

伝わるもの 伝えるもの

皆さんは学校で、社会や歴史の授業を受け、日本や世界の昔の出来事を学んでいると思います。しかし、私たちの住んでいる春日井に古くから伝わる民話や文化については、耳にする機会があまりないのではないのでしょうか。市内には、たくさんの方々が民話やそれにまつわる場所が数多く残されています。今回は、春日井の昔話や伝承されてきた文化を紹介します。



「春日井のむかし話」を刊行しました

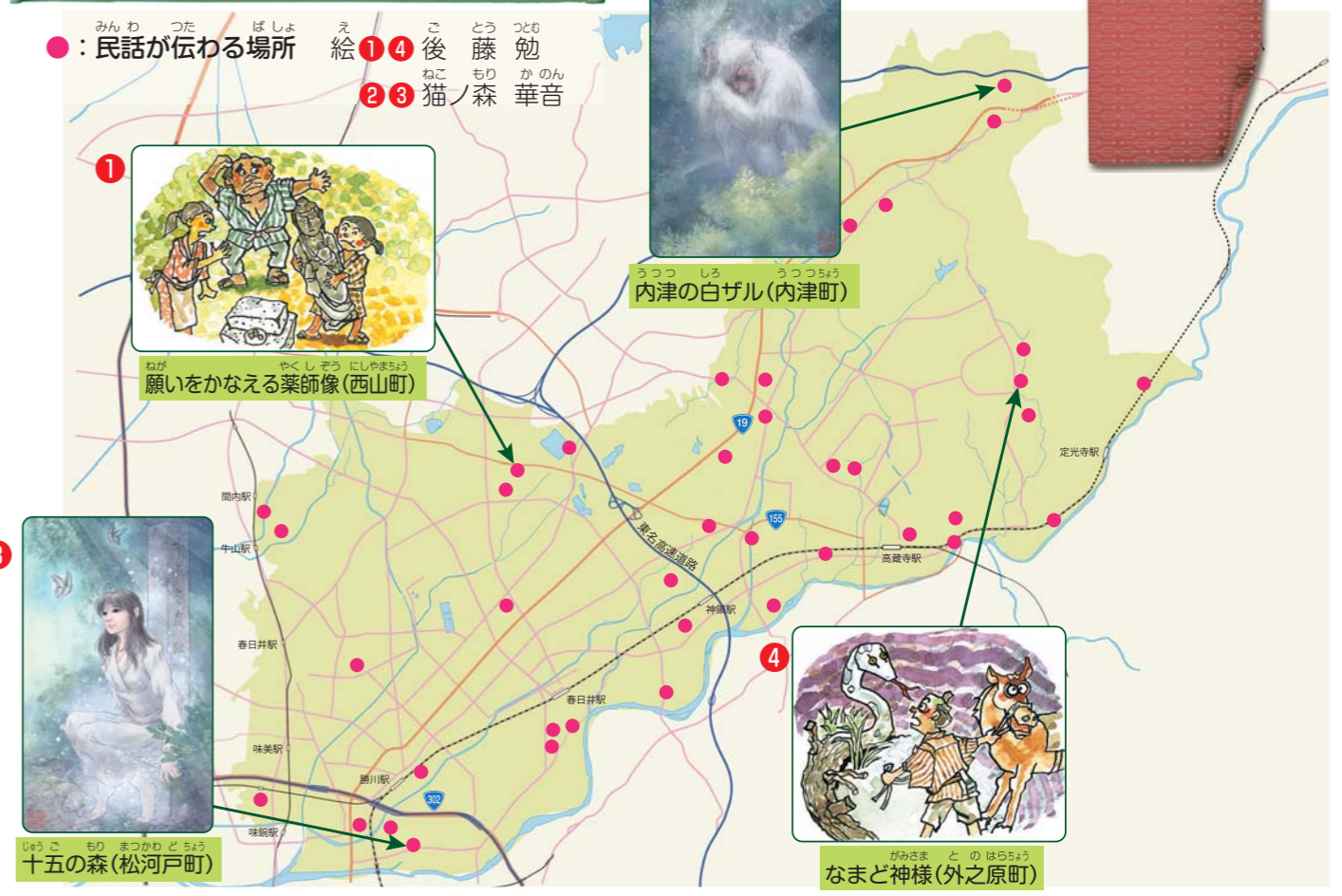
昨年、春日井市は市制70周年を迎え、その記念に「春日井のむかし話」を刊行しました。この本では、下の地図のとおり市内のさまざまな地域に伝わる民話が語られていて、昔の人々の生活の様子や自然の風景なども感じることが出来ます。今自分が住んでいるところや身近なところで、昔ごんなことがあったのか気になりますね。



皆さんの学校の図書室や市の図書にも置いてあります。ぜひ読んでみてください！



「春日井のむかし話」で語られる場所



あの話は本当？

むかし話ツアーを開催

7月31日に夏休み特別企画として、「春日井のむかし話」の舞台となった場所を巡るバスツアーを開催しました。小学生と保護者合わせて21人が参加。今も残る遺跡などを実際に見学しました。尻冷し地蔵(大泉寺町)、香林寺(気噴町)、密蔵院(熊野町)、大光寺(上条町)を順に巡り、それぞれの場所で「春日井のむかし話」の朗読と、春日井郷土史研究会会長の村中治彦先生による解説を聞きました。



密蔵院

1602年に、慈妙上人に建てられた高さ約16mの多宝塔は国の重要文化財に指定されています。他にも彫刻や文書など指定文化財が29件にもおよびます。「春日井のむかし話」では、慈妙上人とその召使いである幸楠丸の不思議な民話が語られています。



尻冷し地蔵

江戸時代の初期、かたき討ちがありました。激しい斬り合いで2人ともへとへとなり、水を飲もうと湧き水に手を伸ばした侍が討たれました。その侍の霊を慰めるために、湧き水の所に地蔵様が建てられました。このお地蔵様の腰から下が湧き水で濡れ、尻を冷やしているように見えるので「尻冷し地蔵」と呼ばれるようになったそうです。



昔話の魅力を感じて ください



春日井郷土史研究会 会長 村中治彦先生

日常生活の中で昔から伝わる物事に、関わることが少なく、ほとんどの人が昔話とは無縁だと思っているかもしれません。しかし、身近な所にまだ残っているのです。昔話を知って、実際に現地へ行くことには、昔の雰囲気、様子を、昔に思いをはせることができるという魅力があります。

ぜひ、保護者の方や先生と昔から伝わる場所へ行って、新たな発見を楽しみ、周りの人に広げていってください。

参加者に感想を聞きました



安藤穂くん(5年生)、愛さん(2年生) このツアーでは、4か所それぞれの場所での解説が聞いて勉強になりました。2か所目に行った、香林寺の屋根の上にシーサーのようものが乗っていることを先生から聞いた

が、一番印象に残っています。初めて行った場所もあり、知識も増えたのでうれしかったです。また、移動中のバスの中からツアーでは行かなかったお寺などが見えたので、もっと他のところにも行ってみたいと思いました。

君も文化の担い手に！ まちの伝統を受け継ぐ子どもたち

市内には、人から人へ、世代を超えて受け継がれてきた伝統の文化や行事などがたくさん残っています。子どもたちも、古くから伝わる地域の伝統を守るために、各地で活躍しています。

尻冷し地蔵の子ども相撲（大泉寺町）



れま。本。この日がお盆の終わりとされています。この日に奉納相撲が行われ、若者たちが集まって腕を競い合いました。現在では、子ども相撲となって続けられているのです。

むかし話ッ
アーでも訪れたことを紹介した尻冷し地蔵。この地蔵前では、毎年8月に伝統の奉納相撲が行われ、地元の子どもたちが元気いっぱいに参加しています。24日は地蔵尊の命日であり、盂蘭盆とも呼ば



年に1度の貴重な行事
白鳥鉄馬さん：3回目の出場で初めて3人抜きができました。尻冷し地蔵のことは学校で習って知っていました。奉納相撲は年に1度しか開かない貴重な経験ができる行事なので、これからも残って行って欲しいです。

源氏天流小田棒の手（小田町）



棒の手は、棒や木刀などを使う武術的な民俗芸能です。小田の棒の手は、源氏天流という流派で、清和天皇の子孫である源義家を流祖とするもので、戦国時代末期の実戦的な古武道の型をそのまま伝えており、とても豪快な点特徴です。明治時代になって現在の名古屋守山区から春日井市の旧関田村（現在の小田町）に伝わりました。地元の保存会は、現在も毎年秋に小田神社や貴船神社へ棒の手の奉納を行っています。

守り、次につなぐ

山中駿之介さん(右)：先祖は棒の手を小田で始めた河野萬三郎で、私は2歳からやっています。大勢の人の前で披露すると気分が盛り上がるので、全ての技を覚えるのを目標にしています。
福岡勝太さん(中)：5年生のときに引っ越してきて、兄と共に始めました。練習が厳しいと思ってはいたけど、明るく楽しくやっています。同級生や下の学年の仲間をもっと増やしたいと思います。
望月 喬さん(左)：4歳のとき、竹の居合い斬りを見て「格好いい」と思い、翌年から始めました。刀が使えるようになるまで、続けていきたいです。



伊多波刀神社の流鎗馬（上田楽町）

流鎗馬は、馬上から的に鎗矢を射る、日本の伝統的な騎射の技術・稽古・儀式のことです。伊多波刀神社では、江戸時代には盛大に行われていたという記録が残っています。明治時代にいったん途絶えましたが、現在では毎年10月の秋祭り



祇園祭り山車からくり（玉野町）



毎年7月に行われる祇園祭りで披露される山車。恵比寿・大黒天のからくり人形を乗せた山車からくりは、市内ではひとつしかない珍しいものです。現在では、天王社前から五社神社前まで曳ぎ、玉野町だけでなく、新興住宅地の玉野台からも子どもたちが参加し、おはやしを演奏します。



提灯山（上条町）

お盆の前後にかけて、市内各地で盆踊りなどに合わせて行われていた提灯祭。上条町の提灯山は、昭和30年代まで続いていましたが、一時中断してしまいました。その後、昭和53年に地元の方々の力で復活し、現在も盛大に行われています。地元の子どもたちも、踊りに参加したりおはやしを演奏したりと活躍しています。



今紹介したものに限らず、あなたが住んでいるまちにも、古くから伝わる伝説や昔話、史跡・旧跡、伝統行事など、まだまだ知らないことがあるはず。また、新しいお祭りやイベントなども、みんなが参加して続ければ、新たな伝統となっていくかも？



皆さんもぜひ、地元の歴史を調べたり、行事に参加したりして、次の世代に伝えてください。